

# 第6次飯舘村総合振興計画策定委員会 第3回議事録

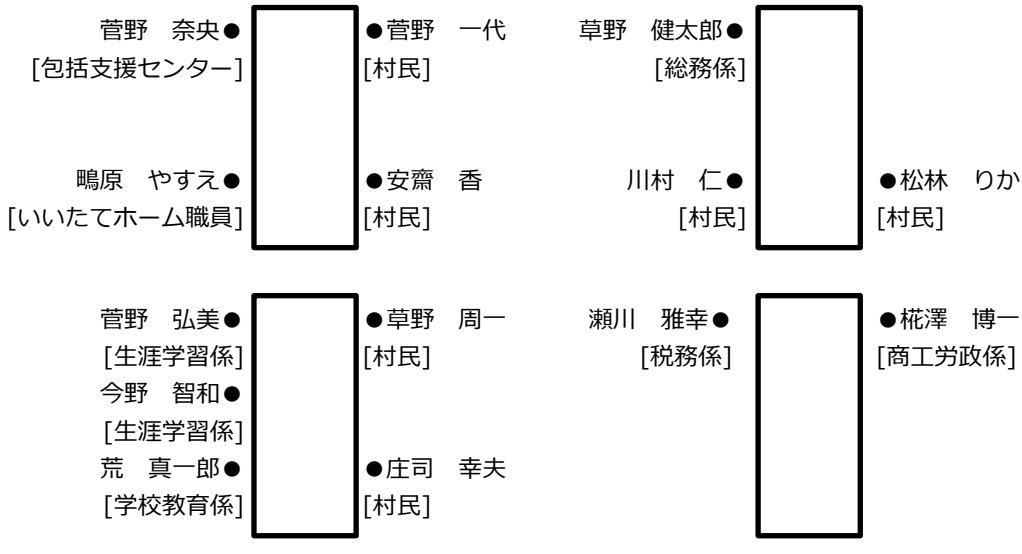
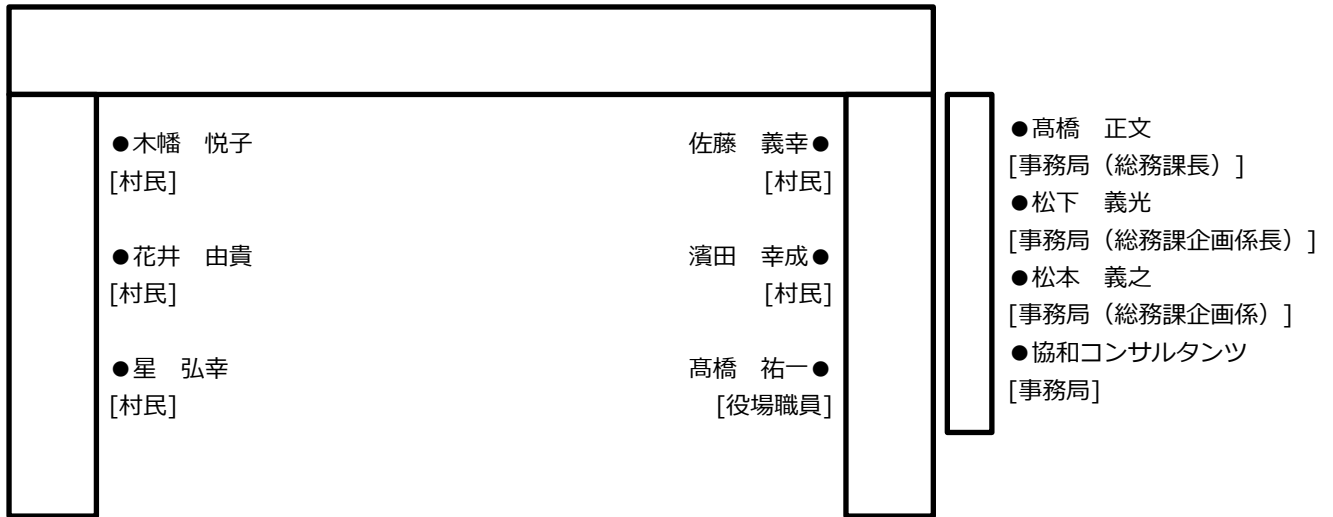
日時：2020（令和2）年1月24日（金）

18：30～20：40

場所：ビレッジハウス

## <出席者・席次>

●村上 早紀子 ●天野 和彦 ●岩崎 由美子 ●委員長 ●佐川 旭 ●副委員長  
 [有識者] [有識者] [有識者] 鈴木 典夫 [有識者（村アド 大内 亮  
 [有識者] バイザー）] [村民]



<b>1. 開会</b>	
<b>2. 委員長あいさつ</b>	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 村民の方がどう関わっていくか、飯舘村の資源と村内外の人、資源にどう取り組んでいくか重要だ。</li> <li>➤ アンケートでも、村外に住んでいても、村に対する思いはある。</li> <li>➤ 各部会からの発表もある。各部会が同じ方向に向いていけるようなキャッチフレーズについても決めていきたい。</li> </ul>
<b>3. 計画策定の進捗報告等</b>	
	・事務局より配布資料を基に報告等を行った。
<b>4. 専門部会の中間発表会</b>	
<b>【健康部会】</b>	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 4つ重点施策を設定した。村全体はひとつのキャンパス、フィールドというイメージで、村民が気軽に参加できることを考えた。</li> <li>➤ 部会では村の人が村らしく過ごすことを考えている。</li> <li>➤ 村民一人ひとりの得意を伝えていく意味を含めて、動画を作っていく。映像で生きがいを伝えていく。</li> <li>➤ 食を切り口にした健康づくり「豆ふたたび」としているのは、五次総でも豆が挙がっていたためである。マメに暮らすという意味も含めた。豆を素材として食を考えるイベント実施しながら、食生活の改善も考えていきたい。村をひとつのフィールドとして考えるのであれば、学園祭とも言える。心を一つにするようなイベント、ほら吹き大会や大運動会などのように、交流できるものなどもよいと思っている。</li> <li>➤ サークルが学校・大学をイメージしている。サロンを開催しても参加してもらうことが難しいこともある。ひとつの形としてキッチンカーを取り入れてはどうか。</li> <li>➤ 支え合いとして、雪かき・見守りなどを仕組みとして解決出来ることを考えたい。村内外の方が参加できるような助け合いを考える。</li> <li>➤ その他、福祉は村の人がどう積み上げていくか、あるもので積極的に創造していくかが重要だ。</li> </ul>
<b>【産業・観光・移住部会】</b>	
部会長	➤ 産業分野では、教える・教わる関係の再構築、儲かる仕組みの構築等を話し合っている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 観光分野では、逆転の発想による取組み、移住分野では、共感人口の増加を考えている。</li> <li>➤ 部会のキャッチフレーズは、あなたをやっこくむかえる村とした。5つの重点プロジェクトとして、①ハウスパーティーを実施し SNS で情報発信、②隠れたスポットの情報発信、③ニーズを共有、④ちょっと人手が欲しい時に求人する、⑤事業者が安定して稼げる産業を継続するためのコンサルティングの導入である。</li> </ul>
--	--

**【教育・文化部会】**

<p>部会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 笑顔の絶えない部会で、第 4 回までの内容をストーリーでまとめている。はじめりは広がり、問題、核心、それは何のためというテーマで整理している。</li> <li>➤ ふるさとを改めて見つめ直す、持続可能な村を目指していくという中で出てきたものが「死にがい」。生きがいはパーソナルなものだが、死にがいは村の環境があって成立するものである。</li> <li>➤ 土の人（地元の人）、風の人（移住者）、水の人（外部支援者）、村は通じ合う媒体となる。</li> <li>➤ いいたて「と」すごす時間が大事ということで、いいたて時間プロジェクトを考えた。5つのコンテンツは、①雪を活かした厳冬キャンプ、②いいたて物語エリア、村の様々な伝説を掘り起こしマップなどにする、③いいたてようつべ（動画）文化・芸能の保存、継承のための教習ビデオ等の作成、④里山復活いいたての自然とふれあう、里山を学ぶというクロスカントリースキーもよい、⑤ふるさとの食文化をつないでいく漬け物カフェやしみ三姉妹である。</li> <li>➤ いいたて食堂は学校給食を高齢者に提供できないか。漬け物を学校で学んで身につけることはできないか。まさに Food = 風土だということで考えている。</li> <li>➤ いいたての郷土色として「しみ」が付いているものがある。しみ大根・しみ豆腐・しみもちを使った鍋「しみじみ鍋」を考えている。しみ三姉妹を日本一地味なご当地キャラとして育てていくことも出来る。</li> <li>➤ これらの楽しんだ時間を「いいたて時間通帳」へ積み立てていく。村内でも村外でも同じく積み立てていく。</li> <li>➤ いいたて時間プロジェクトという実行委員会で実施することを考えている。</li> <li>➤</li> </ul>
------------	--

【防災部会】	
部会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 部門の将来像として「自助・共助で災害に強く課題に立ち向かえる強靱ないいたてをつくります」を掲げている。</li> <li>➤ ①ハザードマップを作成する際に、行政区ワークショップを開催する。土砂災害等だけでなく、ため池などの危険箇所も収集する。②移動、デマンド交通は予約式で翌日以降に送迎する仕組みだが、全国的にも取組みが多い。北上市で先進事例があり、先日、調査や意見交換を行った。1,900人ほどの地域で、住民の移動や買い物の支援を行っている。これらの事例を踏まえつつ、現状にあった移動の仕組みを検討したい。③行政区の連携に向けた検討、防災と合わせて勉強会などを開催。5次総のやるきつながらプランも踏まえながら、地区別計画を5年かけて作っていく。</li> </ul>
<b>5. 議事</b>	
<b>1) 各専門部会の取組みの方向性・重点事業について</b>	
部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ いいたて食堂の話福祉部会でもしていた。学校給食をきこりに提供してはどうかという話をしていた。きこりは食事が出来ないということで利用がしづらいという話も聞いた。一方で飯館の給食はおいしいという話があったので、きこりへ提供出来る仕組みがあればいいのではないかな。</li> <li>➤ 学校給食を大きな会社にして、きこりや道の駅で提供できたらいい。</li> </ul>
委員長	➤ 確かに教育部会や産業部会と一緒に考えられるアイデアだ。
委員	➤ 高齢者への配食サービスは実施しているか。
部会員	➤ 行政区の婦人会や民生委員で50～60食提供していたようだが、震災以降は実施していない。回数は月1回か2回程度で100～200円/食であった。差額は村で支出していた。
事務局	➤ 義務教育学校になると学校給食法で様々な制限があるようだ。
部会員	➤ 同じ敷地内は自校給食となる。そうになると、いろいろなところに配食するのは困難になるかもしれない。
事務局	➤ よいアイデアだと思うので、問題点をクリアしながら検討していきたい。役場職員なども昼食には困っている状況である。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学校給食とレシピの共有なども考えられる。</li> <li>➤ いいたて食堂、コミュニティ食堂、健康部会でいえば健康を考える食を推進するような同じような意図がある。</li> </ul>
委員	➤ しみ三姉妹のしみじみ鍋はどうか。

部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 三兄弟ではないのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 三兄弟だとどこかで聞いたようなものになる。しみ三姉妹体操も今日披露する予定だった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 全体的によく整理されている。</li> <li>➤ 健康部会、戻っている人は高齢者が多いので、健康カレンダーを作ってはどうか。年代に合わせたカレンダーがあるといい。また、ボタンを押せば、テレビ電話で医師と相談出来るようなものがあると安心出来る。</li> <li>➤ 産業部会、地産外消を目指し、売る部分を行政がどう支援していくのが大事になる。起業家を集めて売るという新しい視点も大事かと思う。</li> <li>➤ 教育部会、外遊びなど遊びがあって楽しいと感じた。</li> <li>➤ 防災部会、原発事故で災害について語れる人が多いから、マイナスをプラスに変える視点もよいかと思う。</li> <li>➤ 全体的にこれらがまとまってくると面白いという印象。大変な部分はあると思うが。新しいコミュニティを作っていかなければならない。数年で1,400人のコミュニティになったのだから、この5年で新しいことをしていった方がよいと思っている。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 工夫点として、食生活改善や健康カレンダーなども挙がっていた。</li> </ul>
部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 社会福祉協議会は100歳体操を取り入れている。</li> </ul>
部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域サロンで必ず100歳体操している。クリニックでも毎日体操をしている。行政区の集会所でも世話人の方を中心に実施している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現在は介護保険料が免除されているので意識していないが、今後の負担を抑制するためにも介護予防を進めていく必要がある。</li> </ul>
部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ それはみんな考えている。社会福祉協議会も食生活改善員も協力して進めるところだ。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 様々なところでオリジナルの体操が出ている。子どもが高齢者をリードする動きがあってもよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ しみ体操とも連携してやりたい。レシピが決まっていないので、お知恵を頂きたい</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 時間銀行に関連して、86,400円が毎朝振り込まれるという話がある。86,400というのは、一日を秒に換算したもの。時間通帳の積み立てはよい。思い出は消えることはない。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「死にがい」とだけ聞くとドキっとするが解説もぜひ見て頂</li> </ul>

	<p>きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 飯館で人生の終わりを迎えたいという人は決して少なくない。それを次の世代にバトンタッチしてくことが持続可能な村につながる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ふるさとで生涯を終えるということは大事にしたいという話は健康部会でも出ている。ホームホスピスや、死に場所として受入れていく、帰ってくる場所ということも考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 厳冬キャンプについて、フィンランド式のサウナが流行っていて、寒い川の近くで行いサウナの後に川に飛び込む。そこで食事を作ったりする人もいたり、給食の配食でもいいと思う。1人では出来ないことでつながりも出来ると思う。もう一度新しいコミュニティを原点回帰で繋げていくためのヒントになるかを感じる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ サウナという話は出てこなかったがよいと思う。</li> </ul>
部会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ サウナは人気があると思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 死にがいという言葉に感動した。帰村された方は高齢者が多く、村での人生を全うしたいという思いがあるのだと思う。その人たちが困っていること、もっと死にがいを充実させるために6次総は何を提供できるのかを考えていきたい。</li> <li>➤ 移動は有償ボランティアの送迎サービスも作ることで、まさに死にがいを支えることが出来る。自分達で培ってきた凍みの食文化をつなげていくことも、死にがいにつながる。</li> <li>➤ 足もなくお茶飲みも出来ない。あえてそれを乗り越えて飯館に戻ってきた人達を支えたい。そうすることにより、もしかして私も戻れるかもという人も増えるかもしれない。死にがいは、使ってもらいたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 福祉の人材不足は課題だが、1,500人規模の自治体としては専門家はいる。最期に寄り添えるという専門家、人を活用するという意味でももちろん生きている人向けにも重要である。</li> <li>➤ 防災部会の移動の話は、福祉や生活にも色々関係する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 移動については重点施策として掲げ、本格的に着手できるように進めていくが、運営する主体をどうするかなど要検討事項があり、慎重に丁寧に行いたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 防災部会でワークショップを開催しハザードマップの作成としているが、人数的に厳しい行政区もあるがどうしていくか考える必要がある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行政区の運営が容易でないことは感じている。やる気つながりプランをよい例として、行政区がいくつか一緒になり、重</li> </ul>

	点事業を考えることも検討していきたい。
委員	➤ 大学と連携するのもいいと思う。
委員長	➤ 全体として、映像を使うというのがあった。SNSなどの活用が挙げられている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 産業部会の①楽しむ時間を共有しようの中で、健康と教育部会との連携となっているが、いいたて時間通帳などと結び付けていくことも可能と思った。また、食については、しみじみ鍋との連携もいいのではないか。</li> <li>➤ しみ三姉妹のかぶり物も作るべきだ。</li> <li>➤ 雪の下野菜などもあるし、いいたて食堂など、要素を線で結んでいくと、部会を越えた村としての事業が出てくるのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教育文化は、賞味期限が長い言葉が使われていてよい。</li> <li>➤ 観光分野について、観光は光を見るということなので朝焼けや光など、飯館の情報発信のイメージを作っていくことが大事である。言葉の位置づけをすると方向性が出てくる。他とは違う観光の視点でいってもよいと思う。</li> </ul>
委員長	➤ 委員会で移住した方の声として、星空がいいと挙げてもらった。史跡や観光名所ではなく風景など、印象に残ったものを産業観光に活かしていくといい。
委員	➤ 観光部会の情報発信は素晴らしい。観光情報誌を作ること検討されているということだが、冊子だけでなく発信方法を考えてもいい。常に更新されるような発信方法がよい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 今あるコミュニティ、新しいコミュニティ、どうつなげていくか。民泊は住民に負担がかかる。村の人も手軽に関われる場所があればいい。</li> <li>➤ 福島にも飯館にも家があって、飯館は別荘という感覚も取り入れて、今まで住んでいた人とのコミュニティもつなげる5年間にしたい。</li> </ul>
委員	➤ 漬け物や鍋の話があったがどの世界にもマニアがいる。そのマニア向けに発信すれば、マニアから発信してくれるのではないか。
委員	➤ アンケート結果でも農業再開の声が多く飯館としての魅力は農業だと感じた。これからも各部会で話し合いを進めれば、よりよい6次総になるのではと思う。
委員	➤ 皆さんが思ったよりも考えていると感動した。ユーチューバーに来てもらう、そして発信してもらう、人気のある番組を作ってもらうなどもよい。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 飯館牛の代わりに豆から牛肉を作ることも考えられる。</li> <li>➤ 移動について、スクールバスや買い物送迎、物流とまとめると面白い仕組みができると思う。</li> <li>➤ 給食については、学校を作るときに地域の方と一緒に食事をするということも想定していた。学校に食べに来てもらうというやり方も考えられるのでは。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 健康部会、草刈りの仕方の動画がよい。ちょっとしたことだけどコツがある。5分くらいだと丁度いい。</li> <li>➤ キッチンカーの話聞いてこっちから行くという方法はとてもいいと感じた。待っているという視点しか考えていなかったのだから部会でも考えていきたい。</li> <li>➤ しみ三姉妹は地味だけど有名になって欲しい</li> <li>➤ 強靱ないいたてというのはインパクトがあっている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 当たり前でないことを当たり前と感じている、当たり前に思えることが大事、当たり前がありがとうを入れられたらよい。</li> <li>➤ 村で豆を作っている人がいたのかと思った。</li> <li>➤ YouTube にいいたてむらチャンネルがあるのを知らなかった。</li> <li>➤ いまある飯館村を次世代に残していくにはどうしたらいいか。意見を出していきたい。</li> <li>➤ 教育部会の死にがいてなんだろうと思ったが、確かにここに戻ってきたいと思う人は、家の広さでも価値観が違う。ここで生きて最期を迎えられたらいいな、そんないきいきした村になるといいなと思った。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 当たり前がありがとうという価値観もいい。部会でも今の意見を参考にして、しみじみ鍋のレシピを検討したり、庭先で作るような大豆、湯葉をベースとして鍋にしたりしてみてもどうか。</li> </ul>
<b>2) 計画全体の基本方針・キャッチフレーズについて</b>	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ①について、継続性はあるが、今回はまでいでなくてもいいのではないかと。震災が全てを変えたので、スピリットとしてはあるが、違うものを出した方がいいと思う。気持ちを残しながら順位を下げてもいい。</li> <li>➤ ないものねだりよりもあるもので考えよう、すべての人が戻っている状況にない中で、今ある子ども達や食べ物でいいものを作っていこう。あるもので考えていこうというのは部会の中でもあった。前に進むというのが入っていたらよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ②の足し算引き算というのもいい。部会であるものを有効活</li> </ul>



	用するという話もあるし、足し算も引き算もあっていい。
委員	➤ ものは引き算とはどういう意味なのか。
委員長	➤ 物質的な豊かさよりも心の豊かさ等をイメージしているとの事務局の説明だった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「までい」のように少しわかりにくい言葉を使ったほうが、解説をアイスブレイクのようにして和むことが出来る。</li> <li>➤ ラオスの山岳地帯の村から子どもが来る。勉強意欲が高く、やりたいけどやれないという姿を飯館の子ども達に見せたいと考えた。</li> <li>➤ 物の豊かさを求めてきたが、本当に豊かになったのか。物質的な物を作っていくとないものねだりになってしまう。結局は自分達の力を使わなくなり、お金だけをつぎ込めばいいという話になる。長い目で見れば住んでいる人の足しにはならないという話である。例えば②をメインテーマとして、他の案をサブテーマとするようなことはできるか。</li> </ul>
事務局	➤ メイン・サブという形で2つ選んでいただいても構わない。
部会員	➤ ④を見た時に中途半端な私も受け入れてもらえると思った。自分の位置が表現されていてほっとした。
委員	➤ 10～20年経過した時には、住むという概念も変わって二拠点、三拠点などあり得る。
委員	➤ テレビでも1か所に定住しないというのをやっていた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 風の人だ。ほっとしたということに、新しいコミュニティを作っていくという決意がどこかにあったらいい。</li> <li>➤ 「いいたてをはじめるとちょっと住む、ときどき住む、ずっと住む」などとしてはどうか。</li> </ul>
委員	➤ 飯館を人格になぞらえると寄り添うということが出来る。
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 農業再開プランのキャッチフレーズが「そろそろはだづべ」だ。</li> <li>➤ ④は帰村出来ていない人へのメッセージになる。ほっとしたという意見を聞いてなるほどと思った。ばらばらに住んでいる村民がこのメッセージで自分が村民であることを感じられると思う。もやい直しが出来るのではないか。</li> </ul>
委員長	➤ ②と④あたりと「はだづべ」を組み合わせながら、どこでも村民ということメッセージとして発信したい。心の豊かさということで、「ぎすぎすからふわふわ」といったイメージも加えて考えて頂きたい。
事務局	➤ ②と④を候補とし、ご意見を踏まえながら、ご提案させてい

	ただきたい。
<b>6. その他</b>	
	・事務局より、明治大学農学部の小田切教授による地域づくり講演会、中間報告会のお知らせを行った。
<b>7. 次回の予定</b>	
事務局（松本）	➤ 次回の開催は3月13日で調整を進めたい。決まり次第、事務局から連絡する。
<b>8. 閉会</b>	
	・事務局（松下）より閉会のあいさつを行った。

第3回 飯舘村第6次総合振興計画策定委員会  
(飯舘村第6次総合振興計画専門部会合同開催)

次 第

日時：令和2年1月24日（金）18:30～

場所：ビレッジハウス

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 計画策定の進捗報告等
  - 1) 地域別懇談会の開催報告
  - 2) 専門部会合同視察研修の開催報告
  - 3) アンケート集計結果報告
- 4 専門部会の中間発表会
- 5 議 事
  - 1) 各専門部会の取組みの方向性・重点事業について
  - 2) 計画全体の基本方針・キャッチフレーズについて
- 6 その他
- 7 次回の予定
- 8 閉 会

飯館村第6次総合振興計画策定委員会 委員一覧

区分	氏名
村民	大内 亮
村民	木幡 悦子
村民	佐藤 義幸
村民	花井 由貴
村民	濱田 幸成
村民	星 貴弘
村民	星 弘幸
村民	山田 豊
役場職員	高橋 祐一
役場職員	村山 宏行
有識者（村アドバイザー）	佐川 旭
有識者（福島大学）	鈴木 典夫
有識者（福島大学）	岩崎 由美子
有識者（福島大学）	天野 和彦
有識者（福島大学）	村上 早紀子

飯館村第6次総合振興計画専門部会 部会員一覧①

○健康・福祉・環境部会

区分	氏名
福祉係	高橋 政彦
住民係	糯田 文也
健康係	國分 志保理
包括支援センター	菅野 奈央
村民	菅野 一代
社会福祉協議会	安齋 香
いいたてホーム職員	鳴原 やすえ
有識者（福島大学）	鈴木 典夫

○産業・観光・移住部会

区分	氏名
農政第一係	齋藤 博史
商工労政係	椛澤 博一
税務係	瀬川 雅幸
村民	大内 亮
村民	木幡 悦子
村民	花井 由貴
村民	山田 豊
有識者（福島大学）	岩崎 由美子

飯館村第6次総合振興計画専門部会 部会員一覧②

○教育・文化部会

区分	氏名
学校教育係	荒 真一郎
生涯学習係	今野 智和
生涯学習係	菅野 弘美
村民	草野 周一
村民	佐藤 義幸
村民	庄司 幸夫
村民	星 貴弘
有識者（福島大学）	天野 和彦

○防災・建設・行財政部会

区分	氏名
土木係	松下 貴雄
財政係	伊藤 博樹
総務係	草野 健太郎
村民	川村 仁
村民	濱田 幸成
元村民	庄司 栄伸
元村民	松林 りか
有識者（福島大学）	村上 早紀子

広報いいたてお知らせ版2月5日号（案）

### **飯館村6次総 地域づくり講演会のお知らせ**

村では、6次総策定の参考とするため、明治大学農学部の小田切徳美教授による講演会を実施します。「新しい地方創生－農山村からの提案－」をテーマに、地域住民が設立した法人による商店運営や住宅会社設立等の先行事例、移住受入促進や交流人口についてなど、今後の村づくりについての非常に参考になる講演内容です。どなたでもご参加いただけます。是非ご参加ください。

○日 時…2月12日(水) 午後5時～午後7時

○会 場…飯館村交流センターふれ愛館

○予 約…不要

問総務課企画係（☎0244-42-1613）

### **飯館村6次総 中間報告のお知らせ**

村では、第6次総合振興計画策定についての中間報告会を下記のとおり実施します。計画全体の基本的な方針や分野別の重点事業等について、事務局から報告を行います。また、中間報告会で配布する資料と同じものを村ホームページに掲載すると共に、役場総務課に閲覧用資料を設置します。村の将来を考える大切な計画ですので、積極的なご参加・ご確認をお願いいたします。

○中間報告会日時・会場…2月19日(水) 午後6時30分から

飯館村交流センターふれ愛館

○資料公開・設置予定日…2月14日(金)

問総務課企画係（☎0244-42-1613）

## 1) 地域別懇談会開催報告

飯館村第6次総合計画策定にむけ、具体的取り組みを検討する資料とするため、地域ごとに住民懇談会を行った。開催日時、6次総に関する質問等は下記のとおり。

日時 (2019年)	地域名	会場
11月21日(木) 13:30~	飯樋町・前田八和木・ 大久保外内・上飯樋	飯樋町集会所
12月14日(土) 10:00~	草野・深谷・伊丹沢・ 関沢・小宮・宮内	交流センター
12月14日(土) 13:30~	比曽・長泥・蕨平	交流センター
12月21日(土) 10:00~	八木沢芦原・佐須・大倉	交流センター
12月21日(土) 13:30~	関根松塚・白石・前田・ 二枚橋須萱	交流センター



飯樋町・前田八和木・  
大久保外内・上飯樋



草野・深谷・伊丹沢・  
関沢・小宮・宮内



比曽・長泥・蕨平



八木沢芦原・佐須・大倉



関根松塚・白石・前田・二枚橋須萱

### 分野ごとの6次総に関する主な質問回答

#### 【健康・福祉・環境】

NO	質問・回答
1	Q、特老を満床にしないと継続できないのではないかと。 A、職員が足りない。職員を紹介してくれたら紹介料を払うという制度を検討している。
2	Q、人口が減少するなか空き地や空き家の管理、草刈り・除雪等をどう考えているか。 A、村で直接管理することはできない。村民同士で助け合える制度を検討したい。
3	Q、高齢者の働ける場の確保を推進してほしい A、きこりや道の駅の従業員、パークゴルフ場の管理など、進めていく。

#### 【産業・観光・移住】

NO	質問・回答
1	Q、なんとしても産業を活性化してほしい。 A、農業振興を進める。白石小学校は民間に任せて教室をテナントのようにして貸し出し、利活用を進める方針。
2	Q、特老や道の駅等で従業員が不足しているということだが、避難先の仕事を辞めてまで勤めたい仕事ではないのかもしれない。魅力的な仕事を用意してほしい。 A、特老や農業については、移住者や村外の人に来てくれている。今後も検討したい。
3	Q、村全体の農業基盤整備を強力に進めるべき。避難で駄目になった田畑の整備なので国に負担を求めてほしい。これを6次総に明記してほしい。村全体の農地を5年後までに使えるようになるくらいの計画にしてほしい。 A、スタッフ不足で基盤整備が追い付いていない。通常10年かかる基盤整備を今は3年ペースで行っている。6次総に明記して国・県に協力を要望することも検討したい。
4	Q、所得を向上させる具体的な施策、方針が必要ではないか。 A、村民、民間の協力を得ながら進められるものを検討したい。
5	Q、交流人口を増やすことが大事ではないか。 A、大切だと思っている。
6	Q、牛肉フェスティバルや村民運動会のような村民の団結心を高める大規模な行事が必要ではないか。 A、色々なイベントを震災後に行ってきたがワンパターンになってきているとは思ってきた。検討する。
7	Q、儲かる農業を推進してほしい。若い世代が頑張れるような農業法人など。 A、大事なことなので、検討したい。
8	Q、若い新規就農者は、農協等もお金を出してくれないし、少し売上が落ちるだけで生活できなくなってしまう。何か村で支援してほしい。交流や視察なども開催してほしい。 A、販路拡大、借金の利子の補助、視察の開催など検討したい。
9	Q、中高年の女性にもがんばりたい意欲のある人はいる。その人たちにも丁度いいような、生き甲斐農業となりわい農業の中間くらいの農業にも補助がほしい。 A、検討する。
10	Q、移住者の声をもっとインターネットでアピールしてはどうか。 A、検討する。



## 2) 専門部会合同視察研修開催報告

### 1. 概要

専門部会合同で三島町での視察研修を12月1日（日）～2日（月）に実施した。

### 2. 研修内容

プログラム	内容
町の概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口は約 1500 人</li> <li>・人口や経済の競争ではない豊かさを考えてきた</li> <li>・町内の集落の 8 割が限界集落</li> <li>・教育や福祉、医療について近隣市町村との連携を進めている</li> <li>・桐、編み細工、只見線の形式、伝統行事などが強み</li> </ul>
地域おこし協力隊の活動について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年から受け入れを開始</li> <li>・合計で 17 名が活動（現在 5 名）</li> <li>・活動終了後の定住者は 5 名</li> <li>・活動内容は観光振興、商工振興、農業振興、伝統工芸の継承、移住コーディネーター、桐タンス職人、桐栽培など</li> </ul>
観光施策について	レンタサイクル、田舎暮らし体験ツアー、森の校舎カタクリ等
現地視察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住体験住宅、観光交流館からんころん視察、生活工芸館、工人の館、交流センター山びこ館内視察</li> <li>・森の校舎カタクリ施設見学、宿泊</li> </ul>
教育・文化関係全般（教育委員会）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習支援の実施（「おばあちゃんの味」等）</li> <li>・給食センターは柳津町と共同で設置（将来的には市町村をまたがった組合での学校設立の可能性もあり）</li> </ul> </li> <li>2) 生涯学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子供プラン事業（桐の子隊、放課後預かりなど）</li> <li>・若者交流促進支援事業（バルなどイベント開催）</li> <li>・過去に「地区のプライド運動」として、町内の 18 地区で地区の目標を立てて伝統行事の維持などの活動を実施</li> </ul> </li> </ol>
健康・福祉（町民課、特別養護老人ホーム桐寿苑）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 元気で長生き推進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康フォーラム、トレーニングルーム、ウォーキングコース、健康ポイントカード等</li> </ul> </li> <li>2) 特別養護老人ホームの状況等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員採用はハローワークで求人、すぐに集まるという状況ではない</li> <li>・老人ホームは 50 人定員で稼働率 100%だが、財政的には厳しい状況、人手もギリギリで回している</li> </ul> </li> </ol>

### 【教育・文化】

NO	質問・回答
1	<p>Q、令和2年4月の新入生は何人か。子どもが例え1人になったとしても、学校は残して欲しい。</p> <p>A、5～6人が入学する予定。最近は転入生が増えており、先日も2人増えた。学校は残していきたいと考えている。</p>

### 【防災・建設・行財政】

NO	質問・回答
1	<p>Q、台風19号で氾濫した河川の改修を要望する。</p> <p>A、台風19号関係に限らず、河川について計画に加えることを検討する。</p>
2	<p>Q、防災意識を地域から強めることが必要ではないか。</p> <p>A、必要性は理解している。行政区として人口が激減したところもあり、課題である。</p>
4	<p>Q、タクシーやタクシーに代わるものが必要。飯館村外にも行きたいところがある。</p> <p>A、近いうちに、週に数回、川俣方面の買い物バスを導入予定。他にも検討したい。</p>
5	<p>Q、帰村の意思が無いと明言した人に対して、はっきりとした方針を出して欲しい。</p> <p>A、帰村の意思が無いことが村にもう関わらないということではないと考えている。様々な事情があり、通いながら関係を維持している人もいる。帰りたくなる環境の整備は続けるが、帰村を強制はしない。</p>
6	<p>Q、携帯電話の電波が無い地域が多い。</p> <p>A、対策できることがあれば計画に盛り込みたい。ドコモなどには要望を続ける。</p>
7	<p>Q、消防団員の確保をどうするのか。</p> <p>A、OBの活用など、対策を進めたいと思っている。</p>
9	<p>Q、地域の自主防災組織を複数行政区合同などで作れるように村主導で進めてもらえないだろうか。</p> <p>A、行政区の再編も含め、行政区毎に事情がバラバラなので、各行政区と相談しながら仕組み作りをしていくことを検討したい。</p>
10	<p>Q、村に土地はあるが住まなくなった人とどうしていくか、行政区だけでは結論が出ないのではないか。行政区ごとに話し合っ決めて、というだけではなく、他行政区との交流やアドバイザーの活用をして、行政区の持つ機能などについてスタンダードを見つけていく工夫なども必要。</p> <p>A、検討していきたい。</p>
11	<p>Q、太陽光発電の会社が土地の取得を進めている。村の見解を教えてください。</p> <p>A、農地には農地法があるが、宅地は現状個人の自由。村でも対策を検討したい。</p>
13	<p>Q、役場になんでも相談できる窓口がほしい。</p> <p>A、現在、各地区にコミュニティ担当を配置しており、現在の担当を活用してほしい。また、役場でも対応を心がける。</p>

飯館村 総合振興計画 専門部会<健康・福祉・環境>

健康・福祉・環境部会では、「健康と暮らし」「高齢者福祉・医療」「環境」の3つの分野での話し合いを進めています。「健康と暮らし」では、**村の人が村らしく過ごす**をテーマに、健康管理をする上でも交流が欠かせないこと、子育てはスローフード・郷土食と密接に関連していることなどを確認してきました。高齢者福祉・医療は、施設等での人材確保を最優先課題としながら、**最期まで役割を持つこと**に注目してきました。環境では、住民票がどこになっても飯館村民として、**心のバリアから心の交流**を進めていくことの重要性を確認しています。そこで**生きがいをもって健やかに過ごしていくために欠かせない「交流」**を学校のような気軽な雰囲気の中で実現するため、サークル活動と学園祭に見立てた4つの重点プロジェクトを提案します。

<健康・福祉・環境>プロジェクト体系図

提案する村の将来像：**学校のように気軽に参加できる村**

サークル活動や学園祭がある学び舎のような村

健康・福祉・環境の将来像：**(検討中・仮) 村の人が村らしく過ごす**

サークル活動や学園祭のように気軽に誰でもが参加できる活動を広める

<p>① <b>いいたて動画プロジェクト</b> (動画サークル)</p> <p>撮影する人も撮影される人も生きがいにつながり、その内容を次世代に引き継ぐ</p> <p><b>YouTube 飯館村チャンネル</b> 登録者数 119人 (2020.1 現在) →1500人 (5年後)</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村民一人ひとりの動画を撮影する</li> <li>・草刈りの仕方、料理の作り方など身近な「得意」を撮影し発信する</li> <li>・撮影者は、ビデオ撮影が得意な村民</li> </ul> <p>【手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 取材班を募集 (令和3年度～)</li> <li>2 福島大学の映像の専門家による講座を開催</li> <li>3 取材・動画を作成</li> <li>4 YouTube 飯館村チャンネルで発信</li> </ol> <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島大学・教育部会</li> <li>・福島大学で作成している自分史とも連携</li> </ul>	<p>【イメージ例】</p> <p>きぼうチャンネル</p> 
<p>② <b>豆ふたたびプロジェクト</b> ～豆を使った心満タン活動～ (学園祭)</p> <p>楽しくて健康になれるイベントで交流を促す</p> <p>【目標値】</p> <p>村民の半数が参加 (5年後のイベント1回あたり)</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村民が集まれる楽しい機会をつくるために、5次総でも挙げていた「豆」を活用する</li> <li>・大豆の加工品 (豆腐・豆乳・湯葉も含めて)、コーヒー豆まで幅広い豆を味わえるイベント</li> <li>・広い会場の確保が難しい場合は、村内各所で帯状に開催するなど考えられる</li> <li>・いいたてブランド豆の開発も合わせて検討する</li> <li>・村外の方も気軽に参加できるようにする</li> </ul> <p>あなたは何種類の「豆」を制覇できるか！</p>	<p>【イメージ例】</p> <p>たんのカレーライスマラソン (北海道北見市・旧端野村)</p> <p>カレーの材料が揃う村で材料を集めながら歩く・走る</p> 
<p>③ <b>キッチンカープロジェクト</b> (食文化サークル)</p> <p>地域をめぐって食文化を広め、村民の交流も促す</p> <p>【目標値】</p> <p>5年後キッチンカーを1台導入して運用する</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間は地域をめぐってコミュニティ食堂、夜は孤独になりがちな男性の赤ちょうちんサロンとして活用し、村民の外出や交流を促す</li> <li>・郷土料理の継承や減塩食普及の手段としても活用する</li> <li>・災害時には避難所で食事を提供する</li> <li>・キッチンカー導入費は、クラウドファンディングの活用なども検討する</li> </ul>	<p>【イメージ例】</p> <p>イタリアでは災害の際、避難所にキッチンカーが並びパスタなど温かい食事が楽しめる</p> 
<p>④ <b>支え合いプロジェクト</b> (支え合いサークル)</p> <p>人助け等で人生の最期まで役割を持てるようにする</p> <p>【目標値】</p> <p>5年後までに仕組みが普及</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康維持・見守り・環境美化活動等さまざま地域課題を村民同士で解決できる仕組み</li> <li>・草刈りや見守りをするることによって、村民自身の健康づくりになり、地域コミュニティの交流にもつなげる</li> <li>・元村民など村外の方も参加できる制度とする</li> </ul>	<p>【イメージ例】</p> <p>大阪市では社協やNPOなどが生活支援活動を行っており介護予防ポイントに交換できる</p> 

### 飯館村 総合振興計画 専門部会<産業・観光・移住>

産業・観光・移住部会では、フィッシュボーンという手法を導入し、現状の問題点を掘り下げ本当の要因は何か？つきつめながら取組みの立案を行っています。

村の重要な柱の1つである「産業分野」では、教える・教わる関係の再構築、儲かる仕組みを構築する具体的な経営計画の作成、村の産業の魅力や再開を決断するための情報発信などを中骨にして話し合いを進めています。

「観光分野」では、フレコンバッグも観光に取り入れ体験型学習の導入といった逆転の発想による取組み、「移住分野」では、共感人口を増やし観光以上定住未満の関係の構築などについて意見を交換しています。

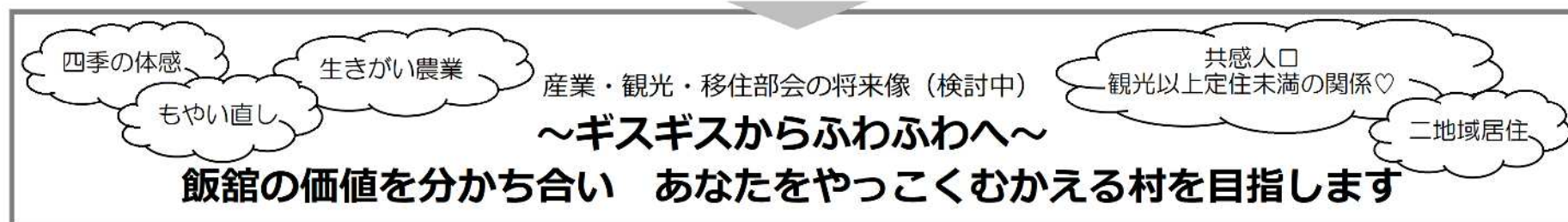
これら3つの分野の話し合いで共通しているのが、弱みを強みにする、また新しいハードだけに頼るのではなく既に飯館村に存在する価値をソフト面で磨きあげ魅力を高めていくという視点です。

今回は村民が主体となり進めていく取組みとして、5つの重点プロジェクトを提案します。これらはまず個々から始めていくことですが、最終的には地域の取組みに発展させ、多種多様な人をやわらかく歓迎する村を最終目標とします。なお、取組みの構築にあたっては、食や情報発信といった点で他の専門部会とも連携していきたいと考えています。

#### <産業・観光・移住定住>プロジェクト体系図

提案する村の将来像（キーワード）

- 【リスタート】 そろそろはだづべ・はばたけいたて
- 【生きがい】 いいたてだからこそできる村
- 【体感・実感】 人はいないけど明るい村・四季を体感出来る村・ホッと一息つける村・自然あふれる村

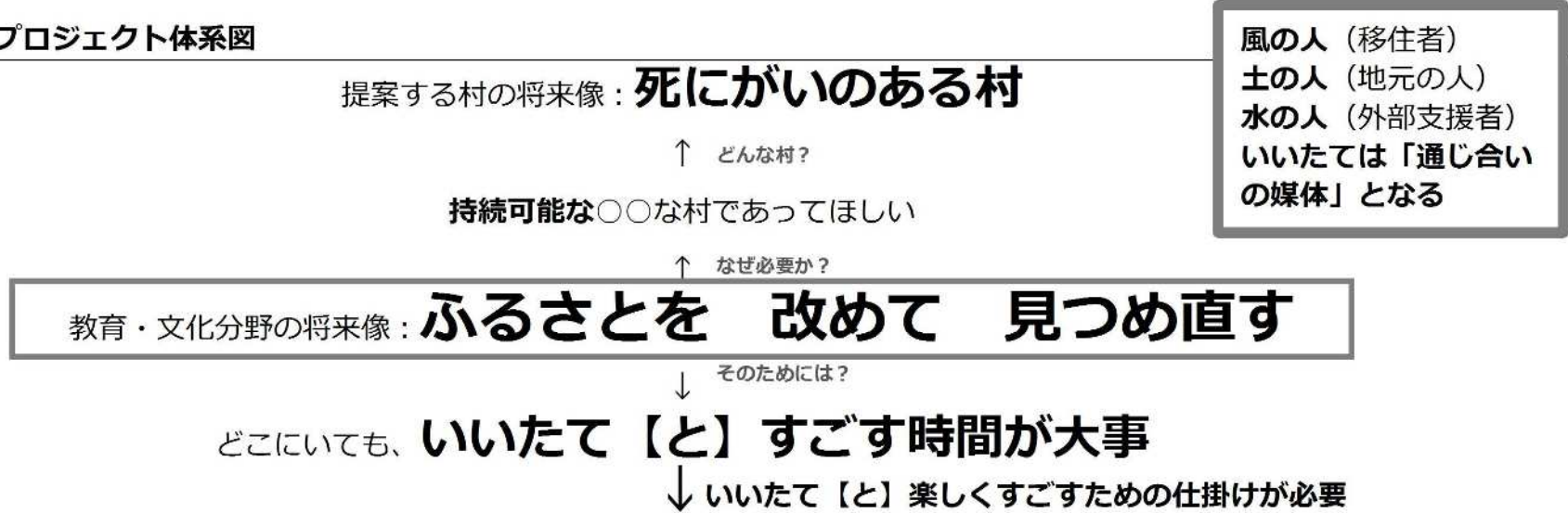


	プロジェクト名（仮）	主体	取組み内容（仮）
やっこくむかえる5つの重点プロジェクト	①楽しむ時間を共有しよう <b>観光・定住</b> ウェルカムプロジェクト 【目標】 モデル地区の設定	村民	○各家庭で知人・友人を招待し、食を通したハウスパーティーを開催。それらを村で斡旋しているタブレットで公開または個人SNSで公開し輪を広げる。 ☞「食」「場」について健康部会・教育部会と連携
	②一人一人が観光大使になろう <b>観光</b> 観光情報発信プロジェクト 【目標】 1年後のInstagramハッシュタグ500個	村民	○自家用車以外で巡れる交通手段を提供するため、自家用車に頼らずとも自転車で巡れる村の隠れたスポットの紹介をタブレットや個人SNSで情報を発信する。 ☞「移動手段」について防災部会と連携 ○ハッシュタグ「#飯館村の秘密のスポット」を付けて発信→クラウドファンディングを活用し、観光情報誌を作る。 ☞「発信方法」について健康部会と連携
	③ニーズを共有しよう <b>定住</b> リクエストプロジェクト 【目標】 営業時間の拡大・定休日の削減	村民 事業者	○必要なものを村内で購入できるように事業者へリクエストし、日用品を村内で購入できるようにする。 ○要望にあった商品を提供する。住民の利便性を高めつつ売上向上など双方に得のある関係を構築する。
	④仕事の魅力を発信しよう <b>定住</b> 仕事の“共優”プロジェクト 【目標】 成立3件/年	村民 行政	○自営業者などが“ちょっと人手が欲しいとき”など、求を出す。スタッフには飯館の仕事の魅力に気付いてもらう。 ○掲示板の設置や専用ページ（ウーバーイーツのような）の開設などをサポート。
	⑤産業で新3Kを目指そう <b>産業</b> (稼げる・カッコいい・革新的技術) コンサルティング導入プロジェクト 【目標】 2回/年	行政 村民	○事業者が村で安定して稼げる産業を継続していくため、農業や工業などの産業活動を行っている方や再開希望者を対象にした経営マネジメント能力や新技術などのコンサルティングを受けられる支援を行う。 ○コンサルティングを受けながら、さらに稼ぐ力を身につけ、持続可能な経営を行う。そして産業の魅力の発信し、再開希望者や新規参入者等へのサポートを行うなど産業の拡大・技術の継承・担い手の拡大に貢献する。

飯館村 総合振興計画 専門部会<教育・文化>

教育・文化の分野について第3回で整理した「大人も子どもも自分のルーツ・ふるさとを改めて見つめ直すことが必要だ」ということ、「それはなぜなのか」さらに深く話しあいました。それは、「村として死にがいのある場所である」心のよりどころ、いわば生き抜いたのちに還る場所であり続けてもらいたいからだという事。そのためには「どこにいても、飯館【と】過ごす時間」を積み立てていけることが大事であること。「いいたて」は単なる場所ではない、いいたてのDNAがまさに刻まれるのはともに過ごす時間があるものだと確信します。「いいたて【と】過ごす時間」をつくるための5つのプロジェクトと、見える化するための方法を考え出しました。

<教育・文化>プロジェクト体系図



風の人（移住者）  
土の人（地元の人）  
水の人（外部支援者）  
いいたては「通じ合いの媒体」となる

いいたて時間プロジェクト

いいたて時間実行委員会	①いいたてアウトドア	目的   デメリットをメリットに 事業   厳寒キャンプ	いいたて時間通帳へ積み立て	村内の人 村外の人 だれでも 積み立て
	②いいたて物語エリア	目的   歴史・文化の掘り起し 事業   伝説マップの作成		
	③いいたてようつべ	目的   文化・芸能の保存、継承 事業   教習ビデオの作成等、映像による保存、発信		
	④里山ふっかつ	目的   いいたての自然とふれあう 事業   里山学びのクロカン		
	⑤いいたて食堂	目的   ふるさとの食文化をつなぐ 事業   漬物カフェ、つなぐ学校めかどこ しみ三姉妹料理		

積み立てた時間は村事業の参加費等へ還元

※課題  
通帳と記帳方法

※実行委員会は5つのプロジェクトを総括する

<タイムスケジュール>

- R1：しみ鍋料理の試食会
- R2：実行委員会設立、準備期間
- R3：プロジェクトスタート

<連携先>

- ①→産業・観光、防災
- ⑤→産業・観光、健康・福祉
- 全体→行政

子どもが学ぶ・大人も学ぶ  
高齢者が教える  
だれでも先生、だれもが生徒

**MEMO1 PR ツール**

- しみ三姉妹—いいたての郷土食  
しみ大根、しみ豆腐、しみもち。  
日本で一番地味なゆるキャラ
- 凍み沁み（しみじみ）鍋  
しみ三姉妹に雪の下野菜を添えて  
北の寒い気候だからこそその特産品を活かす

**MEMO2 いいたて食堂**

- 学校給食を高齢者へのサービス、健康管理へ活かすことはできないか
- 給食を、子どもと高齢者、おとなと一緒にとることはできないか
- 子どもが学校を卒業するまでに例えば漬物3種をつけられるようにするなど食文化の継承はできないか

**解説 「死にがい」とは**

願わくは、花の下にて春しなむ…等々生き抜いた末に、どこでどのように死ぬかは重要。住民にとって骨をうずめたいところ、帰るところ、安寧のふるさとで「あり続けたい」。生きがいは個人の次元、死にがいは1人では実現できず皆で協力してつくりあげるもの。

飯館村 総合振興計画 専門部会<防災・建設・行財政>

防災・建設・行財政部会では、「安全・安心」「移動・住環境」「村の自立・連携」の3つの分野での話し合いを進めています。「安全・安心」では、情報共有、地域全体での協議体制、予防などの重要性について確認してきました。「移動・住環境」については、行きたいところに気兼ねなく行けることが最優先課題であることを確認しました。「村の自立・連携」では、効率的な行財政運営や、行政区同士の連携が重要であることを確認しました。

そこで、地域が主体となった「防災」「移動手手段の確保」「連携推進」を3つの重点プロジェクトとして提案します。

この3つのプロジェクトを実施していく中で、住民の手による地域ごとのハザードマップ等を作成し、防災への意識付け、防災活動等の強化を図ると共に、行政区同士の連携を強化していくことをめざします。

また、免許を返納した高齢者等でも暮らしやすいように、村内での移動手手段として、デマンドタクシーや村民による助け合い交通などの仕組みを導入していくため、まずはいくつかの行政区でモデル的に実施することをめざします。

<防災・建設・行財政>プロジェクト体系図

提案する村の将来像（キーワード）：



防災・建設・行財政の将来像（検討中・仮）：  
**自助・共助で災害に強く  
 課題に立ち向かえる強靱ないいたてをつくります**

<p><b>①地域で安全を考えよう！</b>                  ～ハザードマップ作成、行政区ワークショップ開催～</p> <p>【目標値】                  令和2年度から着手、村のハザードマップ、防災計画、地域防災マップを再来年までに作成</p>	<p>村役場：全体マップ作成、周知</p> <p>村民：上記内容を確認、情報提供</p> <p>学校：教育の一環として取り組み</p> <p>行政区：ワークショップ開催                  地域ごとのハザードマップ作成</p> <p>【連携】・健康福祉部会（人の情報）                  ・教育部会（学校教育）</p>	<p>【収集情報例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害、水害</li> <li>・強風、雷</li> <li>・ため池など危険箇所</li> <li>・通学路、学校の周り</li> <li>・街灯がない、暗い</li> <li>・避難困難者 等</li> </ul>
<p><b>②地域で移動を考えよう！</b>                  ～デマンド、助け合い交通など～</p> <p>【目標値】                  令和2年度から着手、5年後までにモデル実施</p>	<p>村役場：福祉部門と連携検討                  村営デマンドタクシー実験運行</p> <p>振興公社：他の収益事業（店舗運営など）と組み合わせる実施</p> <p>行政区：移動のニーズ把握、仕組み検討                  実施意欲の高い地区から順次モデル的に導入</p> <p>【連携】                  ・健康福祉部会（介護送迎サービスなど）</p>	<p>【実施事例】（北上市）</p> <p>有償ボランティアによる送迎</p> <p>NPOが運営する店舗</p>
<p><b>③地域同士で助け合おう！</b>                  ～行政区の連携に向けた検討～</p> <p>【目標値】                  令和3年度から着手                  段階的に実施、5年後までに地区別計画策定</p>	<p>村役場：行政区への呼びかけ、支援                  防災と合わせて、勉強会等を開催</p> <p>行政区：困っていること、連携先等話し合い                  総会などの既存の会議の機会を利用                  自分ごと、重要と感じる議題設定                  地区ごとに適任者を推薦</p> <p>行政区・村役場：                  5次総の「やるきつながりプラン」も踏まえながら、地区別計画策定                  地区別計画：各行政区の将来像、土地利用、運営方針、連携内容等を示す。</p>	<p>【5次総やるきつながりプラン】</p> <p>行政区を基にした新しい視座でのづくりを目指します。</p>

### 3) 村民アンケート結果（最終版）

#### 1. アンケートの目的・概要等

##### (1) 目的

施策の重要度やまちづくりへの意識を調査し、計画に村民の意見を反映させるため

##### (2) 実施状況

- アンケート対象者  
令和元年9月1日時点において村に住民票を有する中学生以上の方
- アンケート方式  
郵送による発送・回収
- 回答期間  
令和元年9月28日～令和2年1月10日

##### (3) 回収状況

- 510世帯・963人の方から回答を頂きました。
- 回収率は世帯が23%、個人が20%です。

	世帯	個人
ア：配布数	2,202	4,850
イ：回収数	510	963
ウ：回収率（イ/ウ）	23%	20%

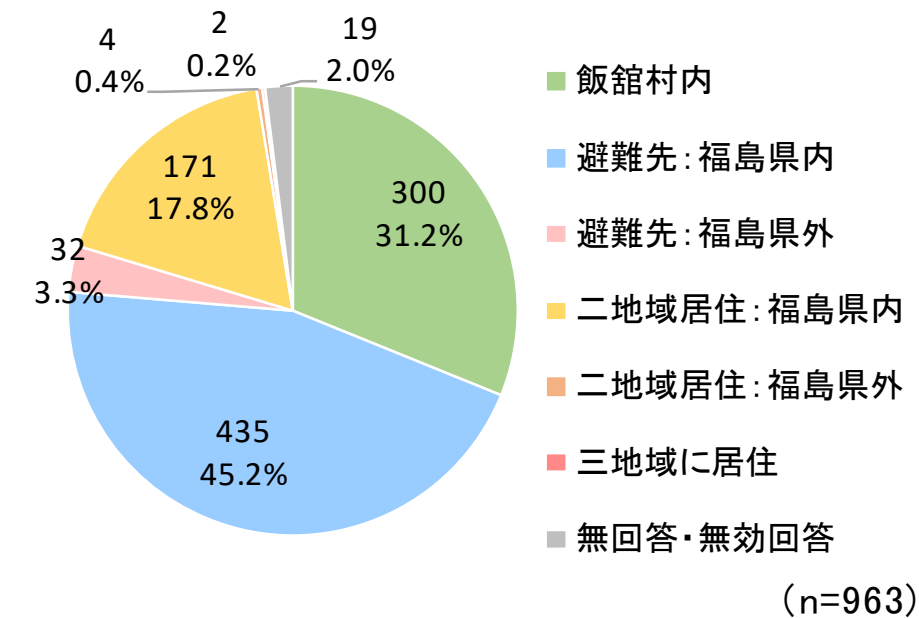
##### (4) アンケート票の設問概要

- 回答者の属性  
性別・年代・お住まい等
- 帰村の予定 ※避難中の方のみ
- 新しい村づくりに関する重要な項目について  
25項目から重要度について選択式
- 村の賑わいの回復や経済活性化等に関連して、新しく始めたいと考えていること  
14項目について選択および記述
- 村の将来の姿や村づくりに対するご意見やアイデア等

#### 2. 回答者の属性

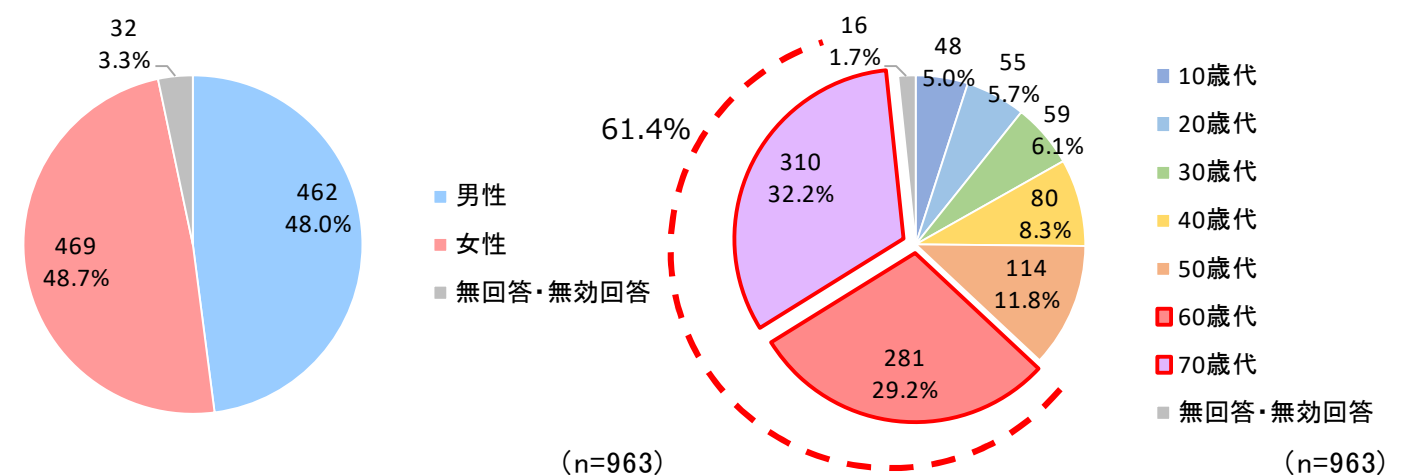
##### (1) 居住地

○回答者は「県内の避難先」に居住する方が最も多く435票（45.2%）、次いで「村内」に居住する方が300票（31.2%）、「村と県内の避難先の二地域」に居住する方が171票（17.8%）となっています。



##### (2) 性別と年齢

- 回答者の性別は、男性・女性それぞれ半数ずつの回答となっています。
- 回答者の年齢は、約6割が60歳以上となっています。

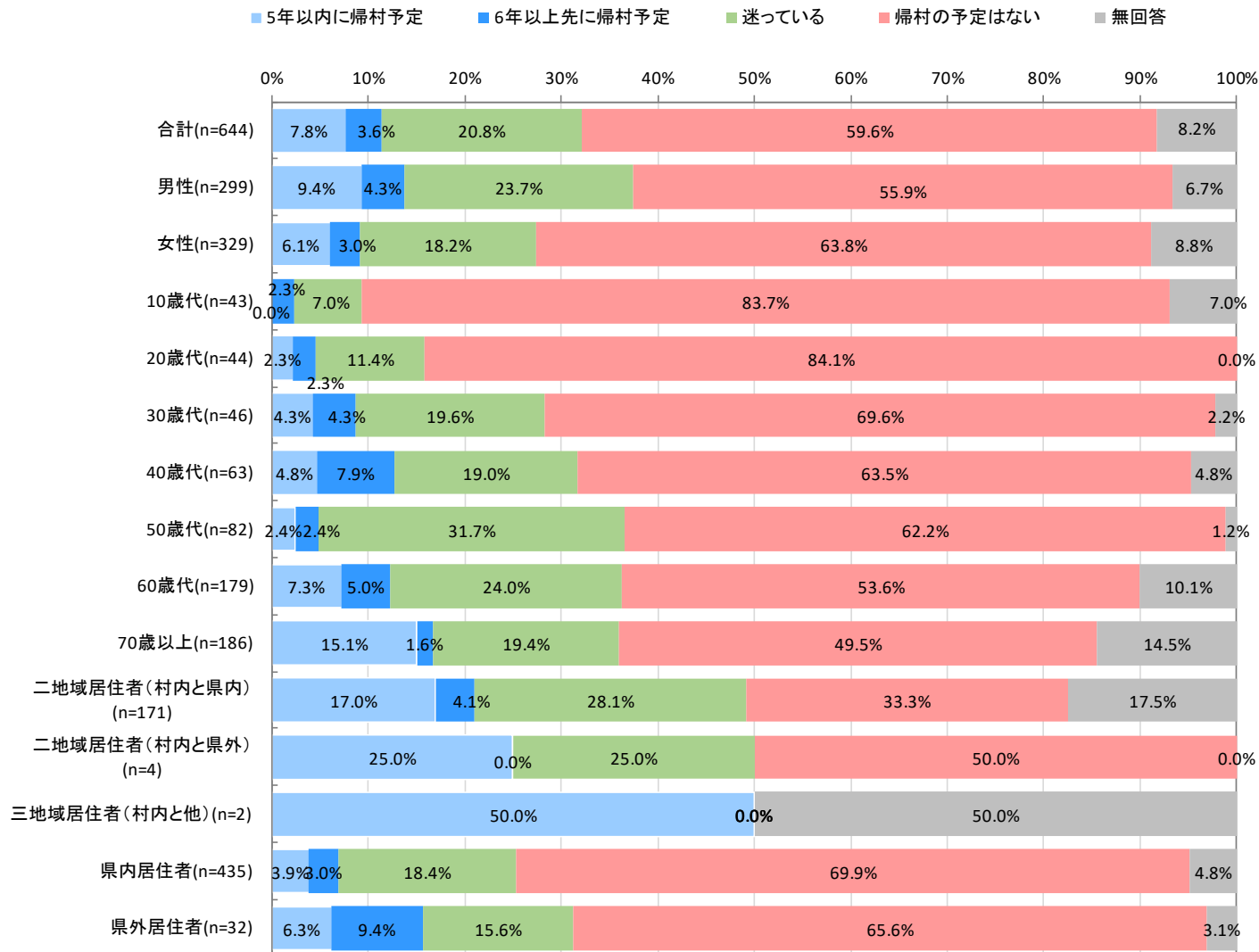


### 3. 帰村予定（現在の居住地が「村内」と回答した方以外の644名の回答）

※村内を含む二地域・三地域に居住する方の回答を含みます

#### (1) 帰村の意向

- 避難者のうち、約6割が「帰村の予定はない」と回答しています。
- 「女性」よりも「男性」の方が帰村意向は強い傾向にあります。
- 年代別に見ると、「70歳代」次いで「40歳代」の帰村意向が強い傾向です。
- 「5年以内に帰村予定の方」の中には、家族の卒業などの転機のタイミングで戻ること考えているとの意見も見られます。
- 「迷っている方」の中には、「放射能」に対する不安の他、コミュニティや働く場、買い物、医療など、日常生活に不安を感じているとの意見も見られます。



#### (2) 帰村予定に関する主な意見

##### ① 5年以内に帰村予定の方

- 子や孫の学校が終わる。 ○ふるさとに戻りたい。
- トンパックが無くなればすぐに帰りたい。 ○お金もないし帰るしかない。
- 村内にある農地を管理するため（営農再開のため）。
- 骨になり村のお墓へ帰りたい。

##### ② 6年以上先に帰村予定の方

- 小さい子供は、飯舘で遊ばせたくない。
- 国の復興支援事業で避難先での営農を継続しなければならない。
- 放射能が高いので低くなってから帰村したい。
- 村に土地や家屋がある。
- 定年後。
- 墓を守る。
- 子育てが終了したら。

##### ③ 迷っている方

- 風評被害・放射能の不安・農業の後継者
- コミュニティが少なすぎる。
- 働く場所がない。
- 自動車免許返納すれば、食料品の買い出しや医療機関にも行く事が出来なくなる。周りの家にはだれもいない。携帯電話が繋がらないラジオの電波もない。
- 将来的に施設の維持・管理に不安。
- 一人では帰って生活ができない為（病院・買い物が近くにない為）。
- 飯舘にも農地、建物、墓があるから。
- 村の5年間中の進展を見ます。
- 住宅再建が困難。

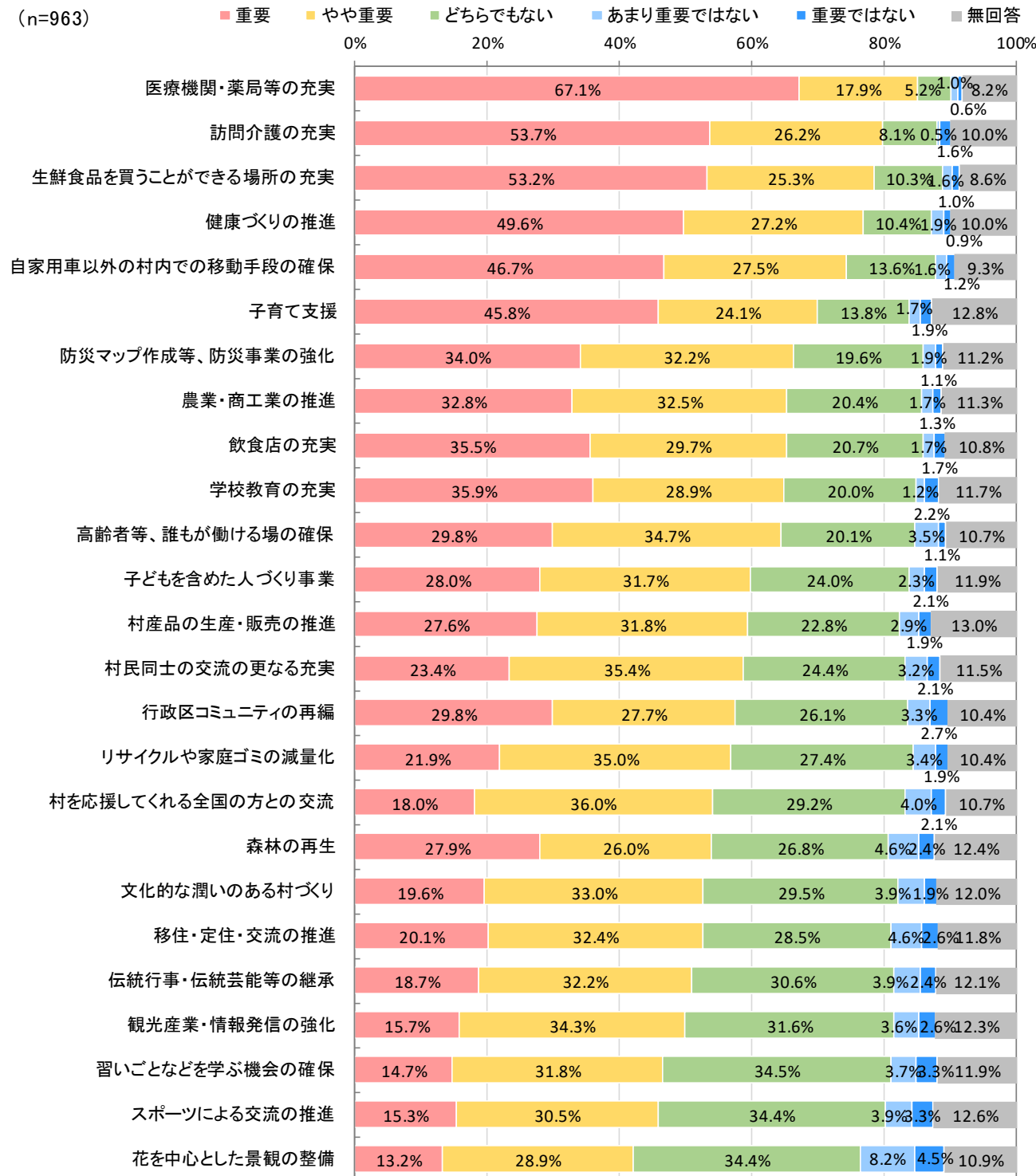
##### ④ 帰村の予定はない方

- 飯舘に戻ってもやる事がない。
- 安全に住めないし、安心して泊まれない。野菜も安心して食べられない。
- 生活基盤が出来たため。生活、仕事が定着した。
- 避難先の方が日常生活における利便性が良いから。
- 高齢者のため医療インフラが整っている所がどうしても大事になる。
- 家がもう村内にない。
- 避難先にて自宅購入。
- 田畑が出来ない。廃炉作業事故の可能性あり。放射能の影響を受けたくない。
- 子供が避難先の保育園や学校に通っている。
- この先の村や行政区内の先が見えてこない。

4. 新しい村づくりについて

(1) 項目別の重要度比較

○半数以上の方が「医療機関・薬局等」や「訪問介護」、「生鮮食品を買うことができる場所」の充実を「重要」と選択しています。  
 ○「文化」や「行事」「交流」「観光産業」「習いごと」「スポーツ」などの機会や交流よりも、医療や買い物などの「暮らし」や「健康」「子育て」「移動手段」など日常生活に直接関わる項目の重要度が高くなっています。



(2) 年代別・居住地別の重要度（「重要」と「やや重要」の合計）

【世代別の視点】

- 「10代」は「子育て支援」や「飲食店の充実」も重要度が高い状況です。また「伝統行事・伝統芸能等の継承」の重要度がどの年代よりも高くなっています。
- 「20～30代」は「子育て支援」の重要度も高い傾向にあります。
- 「40代」は「自家用車以外の移動手段の確保」も高い傾向にあります。
- 「60代以上」は「健康づくりの増進」も高い傾向にあります。

【居住地別の視点】

- 居住地を問わず「医療機関・薬局等の充実」の重要度が最も高くなっています。
- 「二地域居住者」や「県外居住者」は2番目に「健康づくりの推進」を重要と選択する方が多くなっています。

	合計(n=963)	10歳代(n=48)	20歳代(n=55)	30歳代(n=59)	40歳代(n=80)	50歳代(n=114)	60歳代(n=281)	70歳以上(n=310)	年代無回答(n=16)	村内居住者(n=300)	二地域居住者(村内と県内)(n=171)	二地域居住者(村内と県外)(n=4)	三地域居住者(村内と他)(n=2)	県内居住者(n=435)	県外居住者(n=32)
医療機関・薬局等の充実	84.9%	85.4%	80.0%	79.7%	85.0%	87.7%	86.1%	88.1%	18.8%	90.3%	88.3%	50.0%	100.0%	80.9%	90.6%
訪問介護の充実	80.1%	75.0%	80.0%	78.0%	81.3%	85.1%	80.8%	81.6%	18.8%	84.7%	77.2%	25.0%	100.0%	79.1%	87.5%
生鮮食品を買うことができる場所の充実	78.5%	79.2%	78.2%	69.5%	77.5%	87.7%	79.0%	80.0%	12.5%	86.7%	75.4%	50.0%	100.0%	74.9%	84.4%
健康づくりの推進	76.8%	77.1%	74.5%	62.7%	75.0%	77.2%	80.8%	79.7%	18.8%	81.3%	81.9%	50.0%	50.0%	72.2%	90.6%
自家用車以外の村内での移動手段の確保	74.2%	68.8%	74.5%	62.7%	81.3%	81.6%	74.0%	76.1%	12.5%	78.3%	73.7%	25.0%	100.0%	72.4%	84.4%
子育て支援	69.9%	79.2%	78.2%	78.0%	73.8%	73.7%	72.6%	63.5%	12.5%	70.7%	69.0%	25.0%	50.0%	70.8%	75.0%
防災マップ作成等、防災事業の強化	66.4%	66.7%	63.6%	62.7%	62.5%	73.7%	66.9%	68.1%	12.5%	73.7%	66.1%	25.0%	100.0%	63.0%	65.6%
農業・商工業の推進	65.3%	60.4%	58.2%	64.4%	63.8%	71.1%	69.8%	64.5%	12.5%	71.0%	65.5%	50.0%		61.6%	81.3%
飲食店の充実	65.2%	79.2%	76.4%	66.1%	62.5%	65.8%	66.9%	62.6%	12.5%	69.0%	63.2%	50.0%	100.0%	64.1%	68.8%
学校教育の充実	64.8%	72.9%	63.6%	61.0%	67.5%	66.7%	69.4%	61.6%	12.5%	70.0%	67.3%	25.0%	50.0%	61.6%	68.8%
高齢者等、誰もが働ける場の確保	64.5%	64.6%	69.1%	61.0%	63.8%	71.9%	67.6%	61.6%	12.5%	70.0%	64.9%	25.0%	100.0%	60.9%	75.0%
子どもを含めた人づくり事業	59.7%	54.2%	60.0%	57.6%	57.5%	61.4%	61.2%	61.6%	18.8%	63.7%	66.1%	25.0%	50.0%	55.2%	65.6%
村製品の生産・販売の推進	59.5%	62.5%	58.2%	55.9%	58.8%	58.8%	65.1%	57.7%	12.5%	65.7%	59.6%	50.0%		55.6%	75.0%
村民同士の交流の更なる充実	58.8%	60.4%	52.7%	45.8%	48.8%	53.5%	61.2%	66.5%	18.8%	59.3%	63.7%	50.0%	100.0%	55.9%	71.9%
行政区コミュニティの再編	57.7%	56.3%	40.0%	42.4%	45.0%	50.0%	65.5%	65.2%	18.8%	64.3%	57.9%	50.0%	100.0%	54.0%	53.1%
リサイクルや家庭ゴミの減量化	57.0%	60.4%	49.1%	47.5%	51.3%	51.8%	58.7%	63.5%	18.8%	67.7%	55.0%	25.0%	100.0%	51.7%	53.1%
村を応援してくれる全国の方との交流	54.0%	50.0%	52.7%	55.9%	52.5%	48.2%	58.4%	55.2%	12.5%	59.0%	53.2%	25.0%	50.0%	52.0%	56.3%
森林の再生	53.9%	54.2%	47.3%	54.2%	52.5%	52.6%	55.9%	56.1%	12.5%	61.0%	54.4%	25.0%	50.0%	50.3%	43.8%
文化的な潤いのある村づくり	52.6%	56.3%	43.6%	44.1%	51.3%	47.4%	52.3%	59.7%	18.8%	58.3%	55.6%	25.0%	100.0%	48.3%	53.1%
移住・定住・交流の推進	52.5%	64.6%	52.7%	50.8%	53.8%	50.9%	53.4%	52.6%	12.5%	58.3%	50.3%	25.0%	50.0%	50.6%	56.3%
伝統行事・伝統芸能等の継承	50.9%	62.5%	50.9%	47.5%	55.0%	46.5%	50.9%	51.9%	18.8%	51.3%	55.0%	25.0%	50.0%	49.9%	50.0%
観光産業・情報発信の強化	49.9%	54.2%	43.6%	49.2%	51.3%	55.3%	52.3%	48.1%	12.5%	57.0%	52.0%	25.0%	50.0%	45.5%	50.0%
習いごとなどを学ぶ機会の確保	46.5%	64.6%	49.1%	44.1%	52.5%	45.6%	46.3%	44.5%	12.5%	48.7%	46.2%	25.0%	50.0%	44.8%	62.5%
スポーツによる交流の推進	45.8%	64.6%	54.5%	40.7%	48.8%	45.6%	43.4%	45.5%	12.5%	48.7%	46.8%	25.0%	50.0%	43.9%	53.1%
花を中心とした景観の整備	42.1%	50.0%	36.4%	35.6%	28.8%	42.1%	43.8%	46.1%	18.8%	48.3%	38.0%	25.0%	100.0%	38.9%	53.1%



5. 新しく始めたいと考えていることについて

(1) 項目別比較

○「農業再開」が最も多く、回答者の約5人に1人の方が選択しています。また農業については「新規就農」も3番目に多くなっています。  
 ○その他、「村民同士や村外との交流・協力」、「移住者受け入れ支援」を選択する方が多くなっています。

選択項目	票数 (n=963)	詳細な意見 (抜粋)
1. 農業再開	183	○畜産・花・稲作・野菜（ブルーベリーやそばも）・キノコ（ハウス） ○畜産・野菜のブランド化
9. 村民同士の交流の場づくり、交流イベント開催や協力	113	○放射線の正しい知識をお互いに話し合う ○自治会交流の場への参加など ○スポーツや農作業を通しての交流 ○集会所を利用してサロンや手芸等で交流 ○行政努力、イベント強化、フェス等の開催 ○帰村者へのフォロー ○健康づくりと合わせる
2. 新規就農	101	○畜産・花・稲作・野菜・キノコ（ハウス） ○バイオエネルギー作物
11. 移住者受け入れ支援	78	○特に農業経営をしたい人を優先し、条件、環境も整えてむかえる ○居住と仕事の確保 ○売り物件の公開情報の閲覧 ○年配者、子供達の受け入れ体制の確保 ○空き家対策 ○働く場所の提供アピール
10. 村外の方との交流の場づくり、交流イベントの開催や協力	77	○ボランティア活動 ○現在と震災前の復興状況の見学ツアー等 ○復興マラソンをして県外から人を呼ぶ ○映画・音楽 ○交流と活性化を考えている方々を大事に（行動しようとしている方々いる）。
6. 新たな特産品や名物の開発・販売	64	○ハウス栽培（キウイ、いちぢく） ○ブルーベリーしそジュース ○花・栗・ケーキ・くだもの ○いいたて雪っ娘を使ったメニュー開発 ○漆木の栽培による販売・ブドウ
13. 村外への情報発信	56	○ホームページ ○観光や農産物の発信 ○飯舘村の安全性を口コミで広げる。 ○他県に出向いてのアピール
14. 村外の企業等との連携	46	○バイオ系、機械系技術の企業・大学→イノベーション ○外国のアンテナショップ誘致による大企業の参加
3. 村内での就職	45	○農業と林業 ○AI的な農業 ○老人ホーム
5. 自宅等で店を始める	40	○民泊 ○飲食店（カフェ等） ○エステ・理容・美容
7. 工芸品等の制作や販売	40	○村内の工作企業（キクチとかハヤシなど）村産の食品以外の製品を作る ○木工品の作成・ちいさなもの・バッグ 財布 小物入れ ○編み物・手細工
4. 会社等の起業	35	○鉄工業・建設業・土木 ○農業関連・営農団体 ○販売業 ○通信関係 ○福祉就労所 ○ペーカリー ○介護士 ○コンビニ ○広域地方創生の推進
8. 飯舘村のふるさと納税返礼品への出品	31	○裁縫科で作成したもの、村の花、村民がかかわってるもの利用 ○米、きのこ、まつたけ、人気のあった飯舘牛の復活をする ○いいたて雪っ娘の商品 ○帰村した人たちとのコミュニティへの助成
12. 海外との交流事業	23	○ホームステイなど外国人の受け入れ ○福島の実況視察等 ○外国のアンテナショップの誘致により観光地化
15. その他	48	○山林の利用、手入れ、立木落葉樹の利用 ○スポーツ庁とかとの話し合い ○放射線の学習会 ○村の歴史を忘れてはならない ○映画村でもつくってはどうか

(2) 年代別・居住地別の新しく始めたいと考えていること

【年代別】

- 全ての年代において「農業再開」を選択した方が最も多くなっています。「20歳代」は、「村外の企業等との連携」「自宅等で店を始める」「会社等の起業」などの意向が強い傾向です。
- 「10～20歳代」は「30歳代以上」で低くなっている「海外との交流事業」を多く選択しています。
- 「10～40歳代」は「50歳代以上」に比べ、起業や店を始めるといった「自立志向」が強い傾向にあります。
- 「60歳以上」は「他の年代」に比べ「農業再開」「交流」「移住者受け入れ」を選択する方が多くなっています。

【居住地別】

- 居住地に拘わらず「農業再開」の意向が強い状況です。

	合計 (n=963)	10歳代 (n=48)	20歳代 (n=55)	30歳代 (n=59)	40歳代 (n=80)	50歳代 (n=114)	60歳代 (n=281)	70歳以上 (n=310)	不明・無回答 (n=16)	村内居住者 (n=300)	二地域居住者 (村内と県内) (n=171)	二地域居住者 (村内と県外) (n=4)	三地域居住者 (村内と他) (n=2)	県内居住者 (n=435)	県外居住者 (n=32)
1.農業再開	19.0%	18.8%	5.5%	10.2%	11.3%	21.1%	23.5%	21.3%		21.0%	24.6%	50.0%	50.0%	15.9%	9.4%
9.村民同士の交流の場づくり、 交流イベント開催や協力	11.7%	4.2%	1.8%	6.8%	7.5%	7.0%	14.6%	16.5%		12.3%	14.0%		50.0%	10.8%	3.1%
2.新規就農	10.5%	8.3%	1.8%	1.7%	6.3%	13.2%	13.2%	12.3%		11.3%	14.6%	25.0%		9.0%	
11.移住者受け入れ支援	8.1%	4.2%	3.6%	6.8%	3.8%	2.6%	9.3%	12.3%		10.0%	11.1%	25.0%		5.5%	6.3%
10.村外の方との交流の場づくり、 交流イベントの開催や協力	8.0%	4.2%	1.8%	6.8%	5.0%	4.4%	7.8%	12.6%		8.3%	10.5%			7.4%	
6.新たな特産品や名物の開発・ 販売	6.6%	4.2%	1.8%		3.8%	1.8%	9.3%	9.7%		7.7%	6.4%	25.0%		5.5%	6.3%
13.村外への情報発信	5.8%	6.3%	3.6%	6.8%	3.8%	1.8%	5.7%	8.4%		6.0%	4.7%	25.0%		6.0%	
14.村外の企業等との連携	4.8%	4.2%	5.5%	5.1%	3.8%	0.9%	4.6%	6.8%		5.3%	2.9%			5.1%	3.1%
3.村内での就職	4.7%	6.3%	1.8%	5.1%	3.8%	0.9%	6.8%	4.8%		6.0%	6.4%	25.0%		3.2%	
5.自宅等で店を始める	4.2%	4.2%	5.5%	5.1%	6.3%	4.4%	3.6%	3.9%		4.0%	3.5%	25.0%		4.1%	9.4%
7.工芸品等の制作や販売	4.2%	2.1%		1.7%	2.5%	1.8%	4.6%	6.8%		5.3%	3.5%			3.9%	
4.会社等の起業	3.6%	4.2%	7.3%	5.1%	3.8%	2.6%	3.2%	3.5%		4.7%	4.1%	25.0%		2.3%	3.1%
8.飯舘村のふるさと納税返礼品 への出品	3.2%	4.2%		1.7%			3.6%	5.8%		3.7%	2.9%			3.2%	
12.海外との交流事業	2.4%	6.3%	5.5%	1.7%	2.5%	0.9%	2.5%	1.9%		2.0%	1.8%			2.5%	6.3%
15.その他	5.0%	2.1%	3.6%		2.5%	3.5%	7.1%	6.1%		6.0%	5.8%			4.6%	

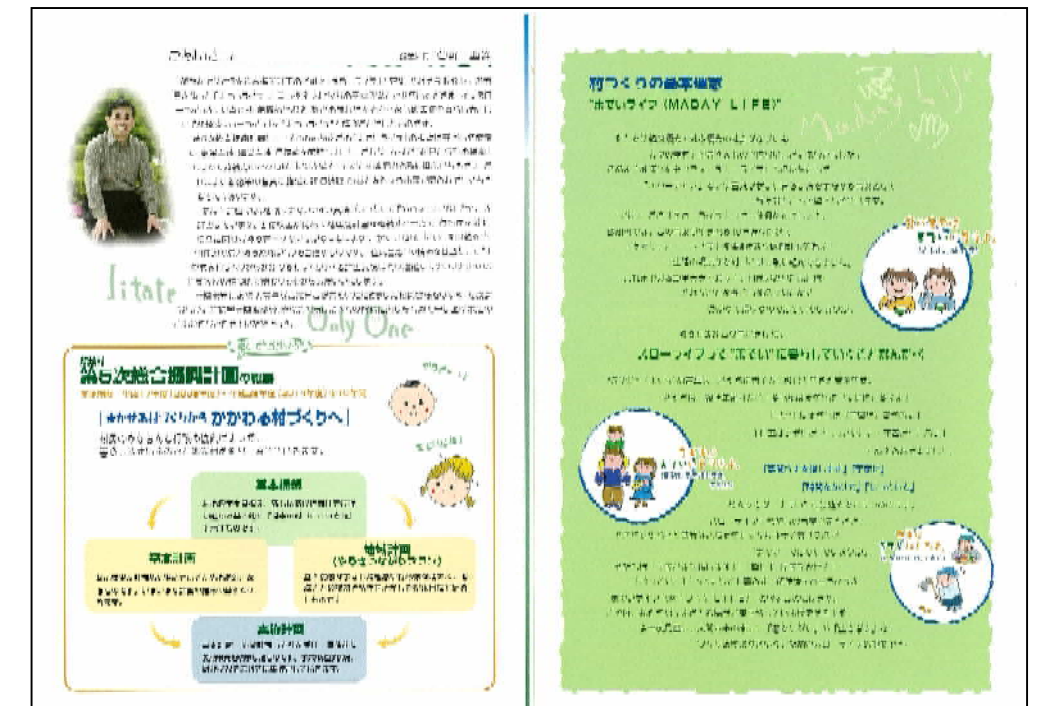
## 4) 計画書デザイン

第6次総合振興計画の冊子は、庁内等で活用することを目的としたイラスト等無しの本編、全戸配布用に編集したガイドブック、ガイドブックを短くまとめた概要版の3種類を提案します。

【本編】  
80ページ程度  
庁内で活用

【ガイドブック】  
20ページ程度  
全戸へ配布

【概要版】  
1～8ページ  
(パンフレットの  
なイメージ)



### 4 第2章 総合戦略 1 基本目標

国の総合戦略では、以下の基本目標を掲げています。

#### 【まち・ひと・しごと創生総合戦略の4つの基本目標】

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

この基本目標を踏まえつつ、村の総合戦略では、復興計画を基とした5つの基本目標を掲げます。

#### 基本目標1 暮らしに密着した課題解決と、時代にあった安全な地域づくり

##### ①放射線対策

- ①-1 住民の生活圏の放射線量の低減のため、除染体制の強化、再除染を国に求めます
- ①-2 空間線量、土壌、水、食品等の各種モニタリング調査を継続し、地図化も含め情報公開し、不安の払しょくに努めます
- ①-3 リスクコミュニケーションを推進し、正しい知識の普及に努めます
- ①-4 甲状腺検査、ホールボディカウンターなどの被ばく検査を継続し、放射線による健康被害を最小限に抑えます

##### ②暮らしに密着した課題の解決

- ②-1 見守り組織を育成し、地域の安心・安全を確保するとともに生活サービス提供の担い手として活用することで、利便性向上につなげます
- ②-2 自家用車を持たない方やお年寄りのために、村独自の公共交通を整備します。併せて、民間交通会社等による村外への交通手段を確保します
- ②-3 日常生活に必要な食料品の確保のため、村内商店と連携した宅配事業を実施します。併せて雇用の確保にもつなげます

### 5) 計画書目次案（本編）

章	項目	想定ページ数
序論		
	序-1 総合振興計画策定の趣旨	-
	(1) 総合振興計画とは	1
	(2) 飯舘村の課題と見通し	1
	(3) 計画の基本的条件	1
	序-2 計画の構成	-
	(1) 計画の構成と期間	1
(2) 計画の対象事業		
(3) 計画の見直し		
基本構想		
第1章 村づくりの将来像	1-1 基本理念	2
	1-2 村づくりの将来像	1
第2章 施策の大綱	2-1 施策の大綱	-
	(1) 健康・福祉・環境	4
	(2) 産業・観光・移住	
	(3) 教育・文化	
	(4) 防災・建設・行財政	
	2-2 大綱別の方針	-
	(1) 健康・福祉・環境	3
	(2) 産業・観光・移住	3
	(3) 教育・文化	3
	(4) 防災・建設・行財政	3
基本計画		
第1章 施策体系		2
第2章 分野別計画	2-1 健康・福祉・環境	7
	2-2 産業・観光・移住	7
	2-3 教育・文化	7
	2-4 防災・建設・行財政	7
関連する総合計画等		
第1章 飯舘村第5次総合振興計画	10	
第2章 いいたてまでいな復興計画		
第3章 飯舘村特定復興再生拠点区域復興再生計画		
参考資料		
参考資料		10
ページ数合計（表紙・中表紙等の7ページ分を含んで）		80

### 6) 人口推計

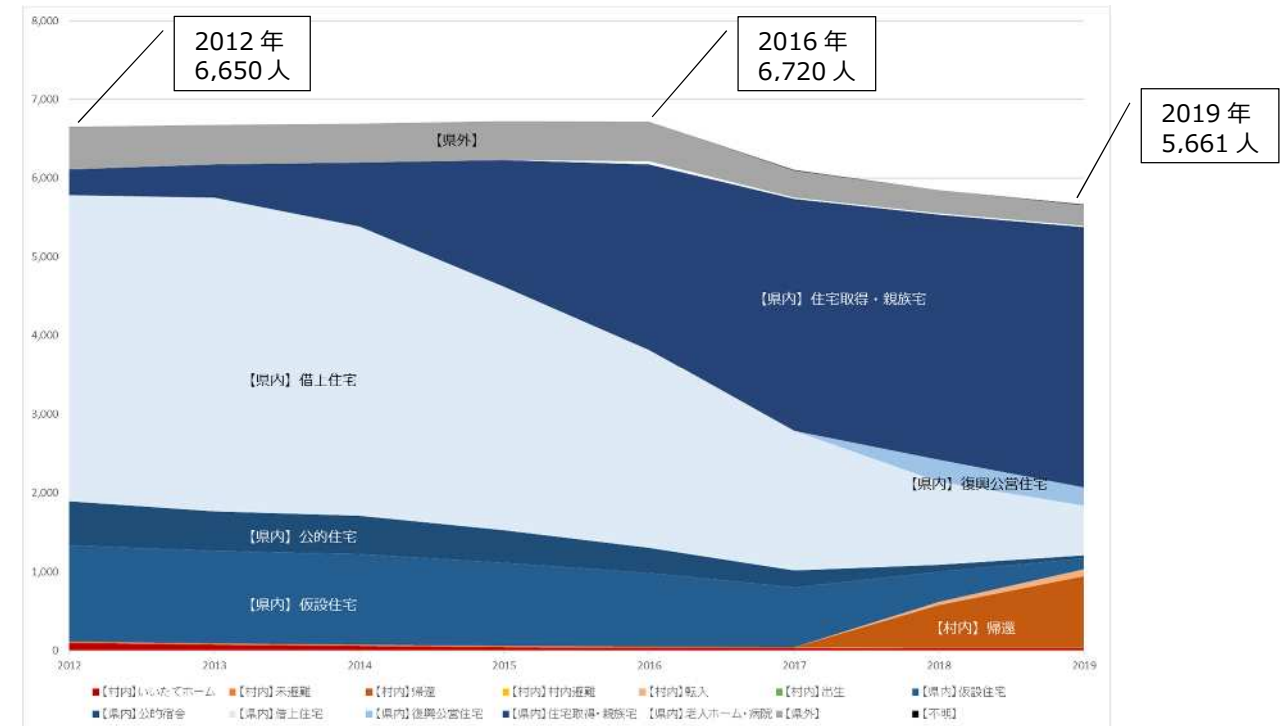


図 震災後の人口推移 2012～2019年（村の避難情報より各年3月1日現在）

2019年7月に国立社会保障・人口問題研究所（社人研）に準拠して推計した結果、6次総の終了年である2026年の村内居住人数は、1,112人となった（①このまま推移した場合）。推計上、人数は減少又は微増の予測であったが、実績値では2020年1月現在で1,392人と推計を上回っている。アンケートでは90人程度が「帰村予定」、130人程度が「迷っている」と回答しているほか、これまでは帰村者数に対し1割程度の人数の移住者が転入していることから、6次総の期間内の村内居住人数については1,500人程度の想定とする。

なお、参考として、2019年7月の村内居住人数を維持・微増させるためには5年で172人程度の社会増（帰村・移住等）が必要（③独自推計）という推計となった。

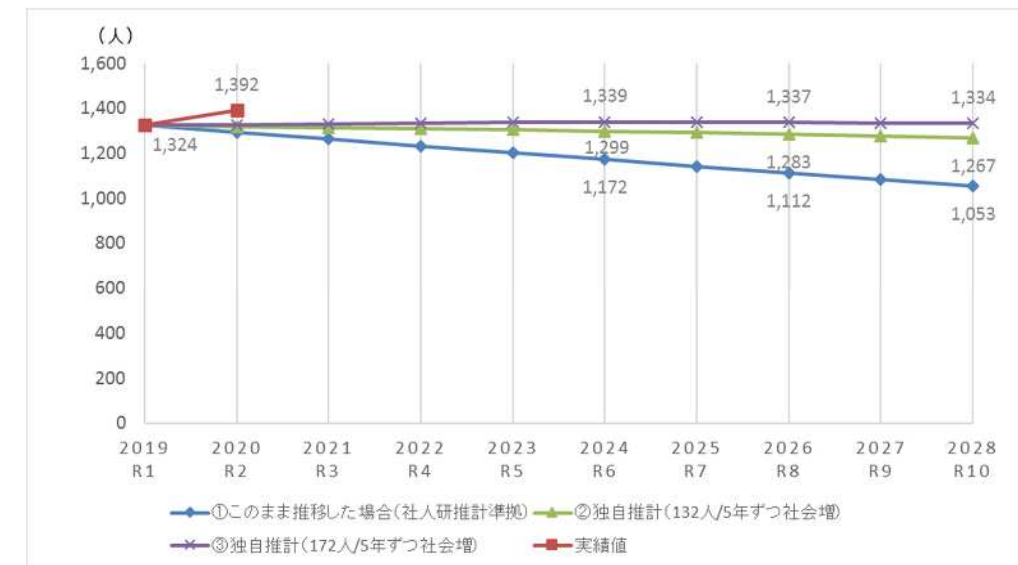


図 今後の人口推計結果（社人研に準拠他）

## 7) 計画のキャッチフレーズ

地域別懇談会で、計画のキャッチフレーズを早めに打ち出すべきだという意見が地域別懇談会にて複数の地域から出されたこともあり、この第3回策定委員会にて、一度決定をしたいと考えています。

各専門部会等でキャッチフレーズやコンセプトを提案していただいたので、その中から事務局にて下記のとおり4つの候補に絞りました。

ご検討をお願いいたします。

- ① までの心を伝え続ける いいたて
- ② ものは引き算、こころは足し算の村づくり
- ③ 上を向いて歩こう一歩前進、足下からの将来づくり
- ④ ちょっと住む ときどき住む ずっと住む みんないいかも いいたて村

### 参考) これまでの計画のキャッチフレーズ

○第3次総合振興計画  
カントリーパラダイスプラン  
緑とふれあいの村

○第4次総合振興計画  
やさしさと活力あふれるクオリティー・ライフ いいたて

○第5次総合振興計画  
大いなる田舎 までのライフ・いいたて  
～素敵な笑顔と心地よい汗で「まかせる村」から「かかわる村」へ～

## 8) スケジュール

### (1) 基礎調査・計画策定（7月～2月末）

- ・人口等の基礎データの収集
- ・将来人口推計
- ・5次総合振興計画及び復興計画について、計画書記載の施策案等について実行度を確認  
⇒各課ヒアリング中

### (2) アンケート調査（9月～1月）

- ・9月5日の広報誌で調査することを村民にお知らせし、9月24日に発送。
- ・回答期限は10月21日と設定していたが、村民の貴重なご意見を少しでも計画に反映するため、協力依頼や回収を進め、1月10日までに回収された調査票をとりまとめた。

### (3) 住民懇談会（5地区で開催）

- ・11月21日（木）：  
飯樋町・前田八和木・大久保外内・上飯樋
- ・12月14日（土）午前：  
草野・深谷・伊丹沢・関沢・小宮・宮内
- ・12月14日（土）午後：比叢・長泥・蕨平
- ・12月21日（土）午前：八木沢芦原・佐須・大倉
- ・12月21日（土）午前：  
関根松塚・白石・前田・二枚橋須萱

### (4) 中間報告会・意見募集

- ・2月19日に、村民への中間報告会を開催、同時に中間報告会資料をインターネットで公開し、村民から意見を募る。
- ・計画内容の案が概ね公開できる状態になった後、村民を対象にパブリックコメント等の実施を検討する。

業務内容	工 程																				
	2019（令和元）年度									2020（令和2）年度											
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)基礎調査・計画策定	■																				
(2)アンケート調査			■																		
(3)住民懇談会					■																
(4)中間報告会・意見募集								■													
(5)策定委員会			①		②		③	④		⑤	⑥										
(6)専門部会			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨										
(7)審議会										①	②										
(8)議会									①				②								
(9)計画書の作成、配布													■								計画書 村民配布

### (5) 策定委員会

#### 【令和元年度】

- ・第1回：総合計画の概要、専門部会の構成とメンバー、スケジュール、今後の方向性
- ・第2回：現状分析～主要施策の検討（専門部会第1～2回の内容）、アンケート結果
- ・第3回：基本構想等の検討
- ・第4回：審議会からの意見への対応、各施策等の検討

#### 【令和2年度】

- ・第5回：各施策等の決定案作成
- ・第6回：計画サンプルをチェック、最終調整

### (6) 専門部会

#### 【令和元年度】

- ・第1回：現状の問題点の意見交換
- ・第2回：問題点の深掘り
- ・第3回：望ましい姿の検討
- ・第4回：重点取組みの検討（産業部会は2回追加）
- ・第5回：中間発表会（専門部会から重点取組みの発表）、方向性の確認
- ・第6回：施策の役割分担の設定、目標・取組み期間の目安の設定
- ・第7回：施策の整理

#### 【令和2年度】

- ・第8回：各施策等の決定案作成
- ・第9回：計画サンプルをチェック、最終調整

### (7) 審議会

#### 【令和2年度】

- ・第1回（4月）：中間とりまとめ
- ・第2回（5月）：最終審査

### (8) 議会他

- ・3月議会で内容の大枠を確認し、6月議会までに完成版の作成を目指す。（状況に応じて9月議会での完成も検討）
- ・6月議会で承認された場合には、計画書データを基に各所属で令和3年度予算の検討を開始。